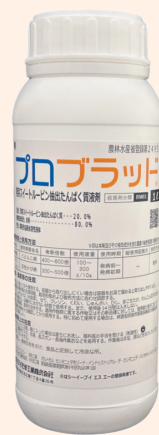


植物由来の新規殺菌剤「プロブラッド®液剤」



※製品画像はイメージです

「プロブラッド液剤」は、主に海外で食用として使われているスイートルーピン豆由来の「発芽スイートルーピン抽出たんぱく質（通称：BLAD）」を有効成分とし、野菜類のうどんこ病や灰色かび病などの糸状菌に効果のある新しい殺菌剤です。

栽培期間中何度でも使用可能

ポルトガルのCEV S. A.社が開発した「プロブラッド液剤」は、EU、米国、韓国など既に多くの国で販売されています。日本における販売会社はクミアイ化学工業㈱です。有効成分は、食品衛生法において「人の健康を損なうおそれのないことが明らかな物質」として設定されており、残留基準値の設定が不要です。天敵

に対する影響も少なく、使用回数の制限はありません。

これらの特徴により農林水産省が策定する「みどりの食料システム戦略」にも適合する製品となっています。有効成分のBLADは、病原菌の細胞質に侵入し、細胞質内の酵素活性を阻害することで効果を発揮します。多重的に作用する系統として、FRACコードでは新設のBM01に分類されています。数多く販売されている微生物農薬や気門封鎖剤とは異なる性能のユニークさがあり、（一社）日本植物防疫協会の新農薬実用化試験で“実用性あり”と判定されたことから、防除体系のローテーションの1剤として新しい選択肢となります。既存化学農薬の体系から一部

薬剤を置き換えて使用することで、他剤の耐性菌発達を遅らせるのに役立ち、化学農薬の使用削減にも貢献できると考えられています（図1）。

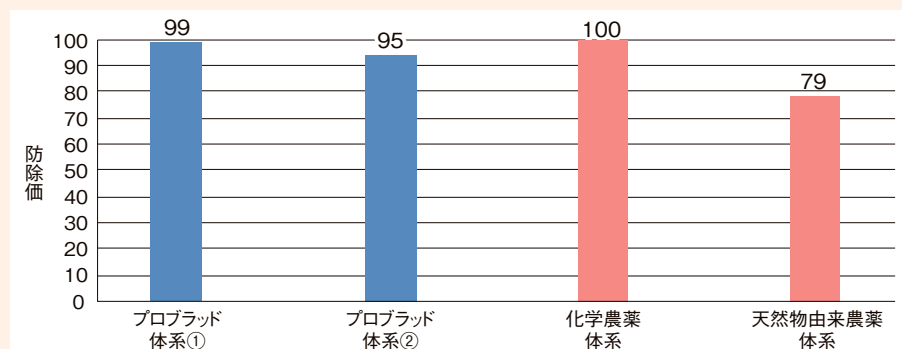
施設栽培作物と相性良好

地球温暖化や気候変動による地球環境の変化は、人々の生活にまで深刻な影響をおよぼし始め、世界的に環境保護の意識が高まっています。日本も決して例外ではなく、環境対策は、企業にとって重要な経営課題となっています。JAグループでも、環境調和型農業推進のため、人や環境にやさしく、残留基準値の設定が不要となる生物由来農薬の利用に取り組んでおり、その一環として「プロブラッド液剤」の評価を行いました。

「プロブラッド液剤」の使用場面としては、天敵導入が進んでいるいちご、きゅうり、トマトなどの果菜類を中心とした施設栽培作物と相性がよいと考えています。また、米国やEUなどの海外でも、残留基準値の設定が不要な殺菌剤として登録されているため、輸出向け作物への使用も考えられます。現在、うどんこ病や灰色かび病以外の病害や野菜類以外の作物での適用拡大を検討しており、将来的には細菌性病害も含めた防除や有機JAS規格の製品として有機栽培でも使用できることが期待されます。

●問い合わせ先

クミアイ化学工業㈱ Tel.03-3822-5036



試験期間：2025年3月26日～5月22日

試験場所：全農 営農・技術センター

試験規模：1区6株3連制、品種：桃太郎ブライト

接種方法：1回目散布翌日に、緩衝株にトマトうどんこ病罹病苗を設置

調査方法：最終散布7日後に第6～15葉の複葉10枚を下記基準で発病調査し防除価を算出

指数0：発病なし、1：病斑面積率5%未満、2：病斑面積率5～25%未満、3：病斑面積率25～50%未満、4：病斑面積率50%以上

発病度＝Σ(指数×程度別発病複葉数)×100/(4×調査複葉数)

試験区詳細：

試験区名	1回目散布 4月17日	2回目散布 4月24日	3回目散布 4月30日	4回目散布 5月8日	5回目散布 5月15日
プロブラッド体系①	ベルコートFL ×2,000	アフエットFL ×2,000	プロブラッド液剤 ×500	ベルコートFL ×2,000	プロブラッド液剤 ×500
プロブラッド体系②	プロブラッド液剤 ×500	アフエットFL ×2,000	ベルコートFL ×2,000	プロブラッド液剤 ×500	ベルコートFL ×2,000
化学農薬体系	ベルコートFL ×2,000	アフエットFL ×2,000	ダコニール1000 ×1,000	トリフミン乳剤 ×2,000	ベルコートFL ×2,000
天然物由来農薬体系	プロブラッド液剤 ×500	カリグリーン ×800	カリグリーン ×800	プロブラッド液剤 ×500	カリグリーン ×800

図1 トマトうどんこ病に対する効果(圃場試験)